

### 事業開始前の様子



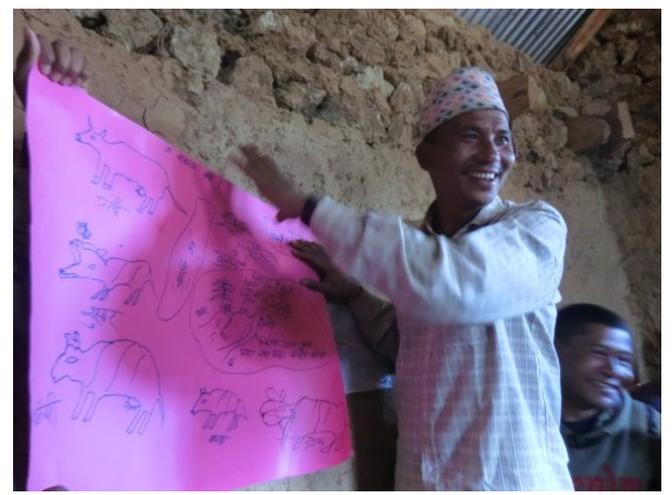
事業立案にあたり、クセスワ・ドゥムジャ村 3 区にて、課題特定のための住民参加型ワークショップを開催。住民は低カースト、高カーストグループで構成されている。



グループごとに代表者が発表し、他の住民と共有。家畜の飼料が不足しており、世帯によって乾期に購入する飼料コストが 3,000～10,000 ネパールルピー(約 3 千～1 万円)に及び、特に低カーストの住民にとっては大きな負担になっていることが明らかに。



4 区、タマン族コミュニティにおけるワークショップの様子。グループに分かれて農業活動の中で直面する課題について図解



家畜の疾病対策、土壌浸食が課題としてあがる。家畜が病気になった際には、村からバスで 1 時間半程かかる町から獣医を呼び寄せる必要があり、住民の大きな負担となっていることが明らかに。



3 区(高カーストグループの住民が暮らすエリア)、土壌浸食と乾燥が進む。



2 区、堆肥用に家畜の糞を集める女性。後方に見えるのは購入した飼料の山。



3 区(低カーストグループが暮らすエリア)、シンズリ郡農業開発事務所オフィサーと、乾燥が進むエリアで栽培できる作物を調査。



ライムが植えられているが、住民は栽培方法に関する技術情報を有しておらず、粗放栽培されており、生育状況が良くない。



昨年度事業で住民によって開始されたトマト栽培。更なる普及に向けて周辺住民の関心も高い。オクラや苦瓜栽培も新たな作物として技術普及のニーズがあがる。



家畜の糞尿を処理するマガルコミュニティ女性。特に尿はそのまま土にしみ込んでおり、農地に活用できていない。家畜舎を改良することで、有機堆肥となる尿を効果的に集めて活用することが可能となる。



山積みになった家畜の堆肥。野晒しになっており、栄養分が流れてしまう可能性がある。地域資源を有効的に活用するためには、発酵方法等の改良を行う必要がある。



灌漑設置前のマガルコミュニティの農地。昨年度の事業で設置された灌漑を活かし、乾期にほうれん草などの葉物野菜の栽培を普及する。



昨年度事業でモデル農家に供給された 3 種の飼料作物根茎。この中から、土壌に適したものを選定し、周辺住民に広げる。



土壌浸食が進むエリア。選定された飼料作物の等高線栽培普及によって、土壌浸食の防止と飼料コスト負担の軽減を図る。



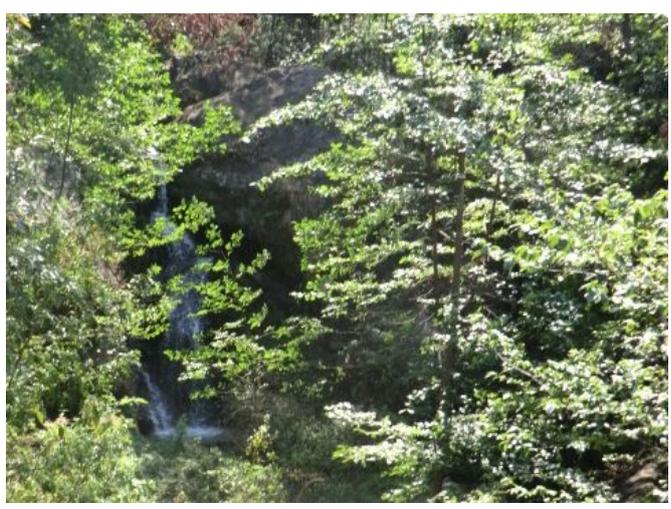
4 区、既存の貯水池は土の表面を覆うカバーがなく、乾期には水が枯れてしまう。



乾期、飲料水を瓶で運んで自家消費用の野菜栽培が行われている。灌漑設備が整うことで、より広い範囲での野菜や果樹栽培が可能となる。



9 区、タマンコミュニティにて住民と水源調査。



9 区の奥地を流れる水源。これまで予算と技術不足から開発が行われてこなかったが、水源を活用した灌漑設備を設置することで乾期の野菜栽培が可能となる。